

検討委員会の選定の重みを

総合的に考えスケン谷を選定

町長



池内 弘道 議員

定を重く受け止め弘野団地も検討していただくよう意見を申し上げます。

答

大西町長

検討委員会の重点を置いた点は、南海地震および津波対策として、町民の生命、財産を守る拠点としての機能や安全性。庁舎を現位置より東側に移すことにより町の中東部の住民感情への配慮。庁舎付近の町並みや関連施設との連携、公共施設や商業施設の発展性、まちづくりの発展性。ほかにも平常時の住民にとつての利便性や交通のアクセス、高齢者や障がい者の利便性など。津波対策は、東日本大震災を受け平地での建設が困難、検討委員会から2カ所の高台の選定があるが、災害直後の

今回のスケン谷への庁舎位置を選定するにあたり、元庁舎建設検討委員会の答申をどれだけ尊重し、参考にしたか問う。

この委員会が1年以上、6回の検討会を費やし、また報告書に委員全員の記名をし、1位弘野団地西側、2位現庁舎東側、3位王迎団地を候補地に選定している。この責任ある選定をしていただいた検討委員会の決定の重みをどう思われるか。検討委員会の決

職員参集を考えるとスケン谷が優位。町の中東部への配慮については、答申に反するが違う形で配慮を行う。関連施設との連携や町の発展性については、住民の利便性、交通の事情、他の官公署との関係についても他の2カ所より優位である。その他の情報を総合的に勘案しながらスケン谷に決定し議会で諮った。これから判断材料も示しながら議会と協議していくが、突発的な支障がない限り、弘野団地への提案を出すことはない段階だ。

子育て支援

中学生までの医療費無料化を  
実施に向けて検討する  
健康福祉課長

問

黒潮町では、現在医療費について就学前の乳幼児を無料化としているが、医療費の無料化は子育ての支援の上からも大変重要な施策と考える。小、中学生の医療費無料化の

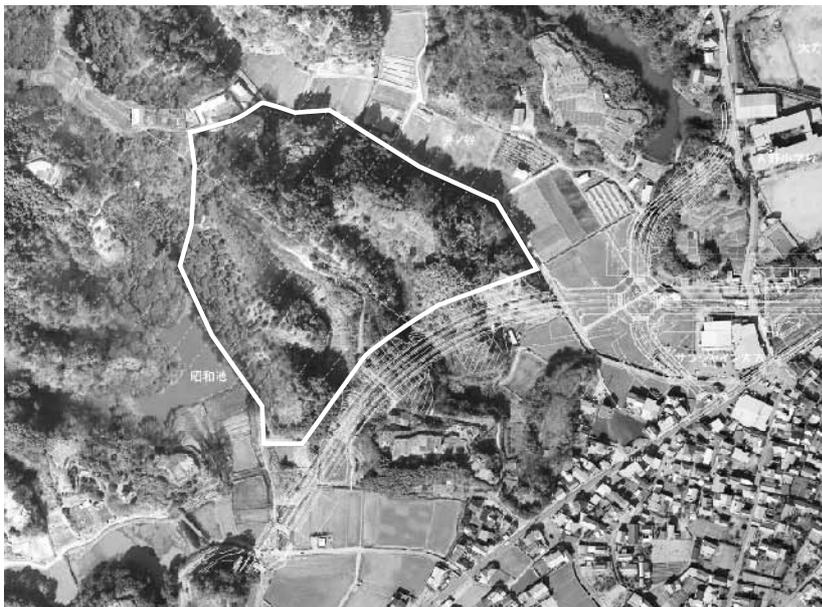
実施について再三議題にあげるが、この問題について検討話し合いがされたか。

答

矢野 健康福祉課長

平成22年度の実績は、就学前の乳幼児の対象者、述べ472人医療助成額1540万余、入院件数97件、通院件数

7240件が対象になる。この医療費の助成について、制度改正により対象年齢を15歳まで拡大している市町村が多くなっている。人口減が続く中で少子高齢化の傾向が一段と強まっており、本町としても子育ての支援策として、今後財政との調整を行って対象年齢を15歳までということを検討していく。



移転候補地スケン谷と56号新ルート